

北山だより

北山湿地(池金町)は、岡崎市自然環境保全条例に基づく自然環境保護区に指定されています。湿地およびその周辺でのすべての動植物の採取等の行為は禁止されています。これに違反した場合は、30万円以下の罰金が科せられる場合があります。貴重な自然環境の保護にご協力ください。

北山湿地を守る活動

【8月の作業内容〈20日(土)9時～正午〉参加12人】①ヒメカンアオイ移植場所付近の除伐ほか整備②台風により破損した木道の修繕



9月上旬ある日の北山湿地。日なたでは真夏の暑さに汗が止まりません。人間にとっては秋はまだしばらく先のようにですが、自然は敏感に気候の変化を捉え、徐々に移り変わりつつあります♣ハッチョウトンボは姿を消し、代わってアキアカネやナツアカネなど“アカトンボ”が飛んでいます♣周囲の山林はツクツクボウシの大合唱。そのちょっと薄暗い山林の中ではホタルガの舞う姿が多く見られます♣A湿地ではホザキノミミカキグサがまだまだ元気。ミズギボウシ、ミズギクやサワシロギクも咲いています♣これからはサワギキョウやスイラン、キセルアザミ、ツルリンドウやツリガネニンジンなどが見られるようになるでしょう。クロミノニシゴリの実



も名前の通り黒く色づいてきます♣この時期、県内の多くの湿地ではシラタマホシクサが見頃を迎え、湿地一面が真っ白に彩られますが、岡崎市の湿地にはありません。そのため、他の湿地と比べますとどうも少々見劣りが♣でも、これも北山湿地固有の特徴のひとつ。たとえばホザキノミミカキグサ。北山では先述の通り群生していますが、他所ではあまり見られず、北山と比べますと意外なほどに少なく感じます♣どの湿地もそれぞれ個性があり、見比べてみるとなかなかおもしろいです。

ホタル学校開校へ始動

8月、岡崎市自然共生課より「(仮称)岡崎市ホタル学校」の整備概要が公表されました。

市内では美合町生田地区や河合地区が「岡崎ゲンジボタル発生地」として国の天然記念物に、額田地区全域に生息するゲンジボタルは市の天然記念物に指定されています。このように

岡崎市にとってホタルの保護は重要な課題であるため、その活動拠点として、そして市民一人ひとりがホタルと共生し、自然環境との関わりを考える場となることを目的に整備されます。

昨年閉校した鳥川小学校(鳥川町)の校舎を、懐かしい学校の雰囲気を残しつつも、内部を博物館的な展示室、ホタルの飼育室、学習・交流・情報発信スペースなどに改装します。施設は市が管理しますが、広く市民の参加も呼びかける方針です。計画では8月より改修工事に着手。来年4月1日開設の予定です。

《「西三河生態系ネットワーク」フォーラム開催》愛知県が昨年10月、主に矢作川流域に所在する企業などと連携して協議会を設立した西三河生態系ネットワーク。この地方には里山や水田など豊かな自然環境が残されている一方、国内有数のものづくりや農業といった産業が集積しています。こうした産業と多様な生態系とが共存し、次世代へつなげていくことが目的であり、環境保護団体や有識者などの参加も促して、行政・県民・企業などが一体となったこれまでにない新しい地域づくりを目指します。このたび、その一環として愛知学泉大学が主催するフォーラムが開催されます。【日時】10月1日(土)13時30分～16時【会場】愛知学泉大学豊田キャンパス(最寄り駅より送迎バスあり)【内容】<基調講演>涌井史郎氏(東京都市大学環境情報学部教授・同ネットワーク協議会会長)「産業・暮らし・自然が共生する生態環境都市」<パネルディスカッション>「産業・暮らし・自然の共生に向けて」岡崎市環境部の木俣弘仁部長や自然保護活動者養成講座でおなじみの矢部隆・愛知学泉大学教授らが参加【定員】250人【その他】参加条件なし。申し込み不要【問い合わせ】同大学豊田学舎総務課(☎0565-35-1313)。

《田園に一面の粉雪—ソバの花—》水とみどりの森の駅・千万町茅葺屋敷周辺で9月上旬、ソバの花が見頃に。休耕田の活用法のひとつで、JAと地元が協力して約3万平方メートルで栽培。屋敷とともにまさに日本の秋の原風景。岡崎市の新たな名所になるかも。※森の駅10月のプログラムは同ホームページまたは市政だより9月15日号をチェック。

湿地保全団体と交流



8月24日(水)、おかざき湿地保護の会会員15人、特別会員の先生3人で設楽町の面の木植物群落の視察を行いました。

面の木植物群落では管理人の佐々木さんの案内で、初秋の訪れ間近な面の木の自然を満喫しました。これから咲き乱れるであろう草花を前に、月が変わっ



ツチアケビ たらまた来たい、と言うのが会員みんなの感想でした。

道中の道の駅での買い物も満喫し、とても楽しい1日でした。

面の木植物群落＝設楽町指定天然記念物。茶臼山高原道路沿いの「面の木ビジターセンター」駐車場下にある木地師屋敷跡付近に広がる。一帯には湿地性ほか多種多様な植物が生育し、野草の宝庫として愛好家などに広く知られる。常時公開。

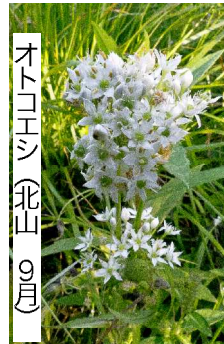
その3日後の27日、武豊町で「湿地サミット」が開催され、湿地保護の会の役員9人が参加



しました。一般にはあまり知られていませんが、今年度で第20回となります。愛知県内の湿地湿原が所在する12市町が毎年持ち回りで主催しており、自治体職員および保全団体会員など関係者が集って意見や情報交換を行い、知識や交流を深めることが狙いです。



午前のサミットでは、武豊町の壱町田湿地（愛知県指定天然記念物・通常非公開）における活動報告、これに基づいた湿地保全に関する質疑応答が行われました。午後には同湿地を視察し、絶滅危惧種のシロバナナガ



オトコエシ(北山) 9月

バノイシモチソウ、ヒメミミカキグサなど観察したほか、湿地の整備状況などもチェックしました。

希少種が多く、参加者は高い関心を示してその重要性を実感する一方、他地域同様に乾燥化や被圧植物の繁茂など湿地の衰退も懸念されており、何らかの対策が望まれます。

きたやま歳時記⑭

不思議な植物の名前③

人の持ち物または装飾物に姿かたちが似ているために付けられた名前のひとつがムラサキケマン（紫華鬘）。道端などに普通に生え、高さ30cmほどの筒状の特徴ある花をつけます。葉はニンジンに似ています。



さて華鬘とは、仏前を荘厳するために仏堂内陣の欄間などにかける装飾です。もとはインドの男女の身体を装飾するために用いられた生花の花輪でしたが、転じて仏具となりました。多くは金銅製で花鳥などが透かし彫りされています。右の華鬘は中尊寺金色堂に伝えられている貴重な文化財。つる草の花、葉やつるをデザインした文様で、宝相華唐草文（ほうそうげからくさもん）といいます。これは西アジアが起源で仏教でさかんに用いられました。



以上のような華鬘にこの花が似ているらしく、「紫色の華鬘」というのが由来だとか。

一方、動物の名前が付いたものもたくさんあります。その中でも、干支に登場する動物が付いたものが多く、とりわけ多いのがイヌだと思われ、次いでウシ、ウマが多いようです。皆さんも探して見てはいかがでしょうか。

ここでは数少ないトラを取り上げました。ヌマトラノオ（沼虎尾）です。花序の形が虎の尾に似ていることに由来し、水辺・湿地に生えます。仲間にオカトラノオもあります。（文と写真/おかざき湿地保護の会 古本峯夫）

